



津山市地域おこし協力隊

土山 浩司さん（上之町）

兵庫県出身で、大学を卒業後、岡山県内の放送局に28年間勤務。退社後に立ち上げた会社で、自治体の施設の指定管理者になり、地域活性化に携わる。令和2年4月に津山市地域おこし協力隊に就任し、城東まちづくり協議会に籍を置く。新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛が続く中、地域の人を対象に、作州城東屋敷（中之町）での弁当の予約販売を提案した。



協力隊になろうと思ったきっかけは？

放送局を退社して立ち上げた会社を基本に、ある自治体の中心市街地活性化拠点施設でのカフェの経営や、インターネット放送局の運営など、地域に密着した取り組みに関わりました。インターネット放送局では、地域おこし協力隊に関する番組制作なども行いました。残念ながら志半ばで会社をたたむことになりましたが、そんな時、津山市地域おこし協力隊の募集を知りました。今までの経験を生かして津山に貢献したいと考え、協力隊に応募しました。

弁当の予約販売を始めた理由は？

高齢者が歩いて買い物に行ける場所が無く、出かけるのが大変だという話を、地域の人から聞いていました。さらに、感染症の影響で、普段は観光客の利用が多い地域の飲食店が、経営に困っていることを知りました。これらの飲食店を地域の人々が気軽に利用することができれば、地域の人、飲食店それぞれの課題が解決するのではないかと思います。そこで、まず地域の人に店のことを知ってもらうための取り組みとして、予約販売を提案しました。緊急事態宣言が解除され、弁当の予約数は少し減りましたが、ずっと続けて欲しいという声も上がっています。今回の販売結果の分析やアンケート調査をもとに、地域の皆さんと一緒にこれからのことを考えていきたいです。

今後の目標は？

地域おこしは、情報発信をして訪れる人を増やすことも大切ですが、地域の人々が生活しやすいまちを作ることこそが第一歩だと考えています。地域の中でたくさんの人と話し、自分たちのまちについて一緒に考えることで、地元を大切に思う人が増え、城東地区がより賑わいのあるまちになる提案をしていきたいです。



▲予約を受けていた弁当を手渡す土山さん



▲これからの取り組みについて、地域の人と話し合う土山さん

夏の星空を眺めるのが好きです。最近は深夜でも街が明るく、天の川を見るためには市街地から離れる必要がありますが、織り姫星や彦星など明るい星なら、街中でも探すことができます。8月中旬にはペルセウス座流星群が観測できるので、今年はいくつ流れ星を見ることができ、楽しみにしています。(☆)

旧刈田家付属町家群が「糺つらゆ」として開業しました。去年の秋祭りで通りを駆け抜けるだんじりを取材した際は、工事の幕に隠れていた町並み。あれ、こんな風景だったっけ？ ふらっと散策したくなるような景色に変わっていました。知らなかった地元の魅力を発見するのも、近場の小旅行の楽しみです。(〇)

今年の8月は、取材で3回花火を撮影しました。花火の打ち上がる瞬間を見計らい、花火の光と音に意識を集中してシャッターを切ります。難しい半面、良い写真が撮れた時の喜びは大きかったです。今年は残念ながら花火大会がありません。来年の夏は、夜空に響く花火の打ち上がる姿を撮れますように。(三)

